

日墨戦略的グローバルパートナーシップ研修計画報告書 5月

伊達椋平

5月も下旬を迎え、昼間の暑さから一転、夜風の心地よさを感じながらこのレポートを書いています。日本ではすでに初夏の暑さがみられるというニュースを耳にしましたので、皆様も暑さには気をつけてお過ごしのことと思います。気温とともに日の長さもだいぶ長くなり、サマータイムというのを初めて体験している私にとって、20時をすぎてもまだ日があることに慣れなさを感じている部分もあります。

5月は2日ほど大気汚染のため学校が休校になりました。その日は晴れでも青空は見えず、数キロ先の家はすでに霞んで見えるほどでした。大気汚染といえば中国を思い浮かべる方も多いと思いますが、メキシコはそれを上回るほど大気汚染問題が深刻です。そんな中、環境問題に関する2つのイベントに参加してきました。

1つ目は、メキシコシティの中心部で行われた環境問題に対するデモ行進です。このイベントには500人ほどが集まり、主要道路の一部を封鎖してデモを行いました。メキシコではこのようなデモ行進は頻繁に行われており、女性の安全保障に関するものなど多く見かけたことがあります。今回、環境問題に関するデモ行進ということで私も参加できそうだと思い、参加を決めました。服装は白か緑のTシャツ、一旦広場に集まったあとそれぞれ推薦された人たちがスピーチを行いました。その内容は、化学物質を使った鉱山開発の中止や、資源の無駄使い防止、地球温暖化については京都議定書の内容に触れたスピーチもありました。参加したほとんどの人が高い意識をもっていたことがうかがえて、とてもいい活動だなと感じました。一方で、参加した人のほとんどは肌の白い人たちで、褐色の肌の人たちはというと、その周りで小物を売り歩いているという状況が気になりました。私立学校も参加していたので



すが、そのほとんどが白人系、授業料もかなり高いのだとか。おそらく環境に意識が向いているのはごく一部の人、それも若干人種差別が反映された比較的裕福な人たちなのだろうと思いました。悲しい現実です。ただUNAMの生徒も多く参加していて、行進はどこかお祭りに似た、騒がしく陽気な空気でした。この運動がより多くの人に分け隔てなく広まることを期待しています。

2つ目は、ウミガメの放流イベントです。このイベントは大西洋に面したベラクルス州で行われました。メキシコシティを出発した時は朝も早く冷え込んでいたのですが、ベラクルスについてバスを降りるととても蒸し暑かったです。南に動いたわけではなく、西側に移動しただけだったので想像以上の気候の変化にまず驚かされました。ビーチだけでなく周りにはマングローブの森やそこに



住むペリカン、かに、ワニなどの動物をたくさん見かけました。放流したウミガメは手のひらに収まるサイズで、長いものだと140年以上生きると言います。大きくなるまで何事もなく無事に過ごしてくれたらなと思います。ウミガメは絶滅危惧種から救われつつありますが、その背景となる有意義な活動を少しでも支援できてよかったです。また、さまざまなビーチが観光客によって汚染されていくなかで、ウミガメを放流する地域は綺麗に保たれていました。環境保全活動と観光資源保護活動の両方が組み合わさったこの仕組み、メキシコでどんどん増やして素晴らしいメキシコをもっと世界にアピールしてほしいと願っています。

